

本群物由利をうゝと先づして隨分を隔て
餘梅の館と出させしれり田尻里より七廿八方の
駿馬より黒塗の鞍置らせ金地の袴を掛け金襴に紺
のゆばと差くれてゆるぎと踏せて事なれ形骸
連安保のちゆりて諸人感づけり東郷より宿禰
白のたぐいしに貝鞍おき糸袋の鞍をけりぞり
せり阿も池月磨墨もあしぬきなり目又
漫漶も果せぬひしと池断りて新もそととす
柳も池月磨墨の出来とぬきしと國たぬ川北

新田月今井の寄成内代遊佐御里河と申すの池の駒馬
の子も池月陣のよつ時夢をぬきしと花喰ひといふ
け母馬の塚今もあつとや見むてすはか又磨墨も陸奥
國も新とす之のふてすこふといふ然るに鎌倉版
本も新件と退治といふ都へ攻めし時近江國佐々木
四郎多能頼朝も池月を給けり流石とせしめり
かきし中一の松とぬきしとすまけ世もは池
月不斜も身振といふと聲四聲一断といふ種と
種くかぬけしは遠に目隔しる田子の浦にぞ御